

# 自彊前進

題字 西村直子

NO. 20 令和4年9月9日(金)  
新潟大学附属新潟中学校 学校だより  
文責 教頭  
※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと  
(校歌3番の文言から)

## 秋季教育実習始まる

今週から秋季教育実習が始まり、32名の教育実習生が着任しました。9月30日までの4週間の実習となります。当校に限らず市内の多くの学校で、教育実習生を受け入れています。市内の多くの学校では、9月に体育祭を行うところが多いのですが、当校では、演劇発表会が行われます。実習生にとって、行事に取り組む生徒の姿を見ることができるのは、とても貴重な経験となります。

コロナ禍以前は、春季と秋季各2週間の教育実習が設定されていました。多くの学生が春季と秋季で違う学校に配属されます。しかしながら、今回は春季と秋季を合わせた一ヶ月間の実習となります。それゆえ、当校に配属された実習生には、当校の生徒の様子が典型的な中学生の姿として受け止められることになります。是非いい姿をたくさん見てもらい、教師という職業へのあこがれを強くしてもらいたいと切に願っています。

以下は、実習日誌からの抜粋です。

## 実習日誌より

- ・生徒たちの好奇心の強さと発想の豊かさを感じました。
- ・演劇活動をしている生徒たちは非常に生き生きとしていた。道具作りや広報など、生徒の仕事の裏には、自分たちで一から考えた工夫や知恵が隠されており、感動した。
- ・学年朝会は生徒が主体となってほとんど進めていて驚いた。
- ・部活動の様子を見ることができた。そこでは部長が中心となり、新体制としてどのようにこれから取り組んでいくかについて話し合っていた。生徒中心で活動を進める様子を見ることができて、新鮮だった。
- ・3学年朝会では、学級が異なる生徒同士問題解決型の活動を行っていた。難しいのではないかと感じていたが、困難な課題に直面しても、「自分一人だけ良ければ…」という自分勝手な思いを抱く生徒はおらず、協働的な姿勢を見ることができた。
- ・授業中にiPadで遊んでいて、声をかけるとやめる生徒もいれば、なかなかiPadから目を離さない生徒もいた。強制的ではなく自分で考えさせて行動させることも大切だ。

実習生の初発の感想はとても参考になります。私たちにとって当たり前のことが、良さや課題となって彼らの目には映ります。是非参考にして、素晴らしい姿をたくさん見てもらいましょう。

## 癒される空間



来校者が多い学校なので、教務室入口には、いつもきれいな花を活けています。業者に依頼し、2週間ごとに花を替えてもらっています。

以前は、業者が選定した花を活けてもらっているだけでしたが、夏休みからは、整美部の寺下芳奈さんが直接業者と交渉し、色味や大きさ、季節等を踏まえたお花になるよう要望を伝えてくれています。毎回寺下さんプロデュースの作品を楽しみにしています。とても素敵ですので、教務室前のお花にご注目ください！次回は9月20日になります。